

## 株式会社 フジみらい

— 考え、やってみる、  
みんなのために —

『創業の精神、経営理念』の継承こそが事業承継の意味。新社長の下でお客様や社員、社会からも喜び支持される、共福感動企業を目指す。



社屋外観（マリンピア沖洲新社屋）



会長 江崎 郁夫（左）、社長 江崎 雅章（右）



河川道路イメージ



本社 3F 大会議室（全体会議イメージ）



社会貢献活動（八万南小学校 芝桜植栽）



R1.5 月会長・社長就任記念パーティ集合写真（in グランドバレス）



研修風景

### 発注者支援で 社会インフラを支える

発注者支援業務は、発注者（行政）が遂行する業務を補佐する仕事で、社会の基盤をつくり、快適な暮らしづくりに貢献する仕事だ。当社は建設分野を中心に、調査、計画、設計、積算、施工管理等の各部門で技術支援を行っており、国土交通省から5年連続「優良業務・技術者表彰」等を受賞し、発注者支援業務で四国トップクラスの評価を得ている。

当社の事業は、発注者支援業務を柱に、測量および設計部門のほか、自治体が管理する資料の電子化や効果的な運用を図るための支援ソフトの開発と保守サービスを主業務とするシステム開発の4事業分野に大別される。これらの技術を繋ぎ、お客様に寄り添いながら、お客様と一体となってお客様の課題解決にあたっているのが当社の特徴だ。お客様の課題解決には技術の高さはもちろん必要だが、お客様とのコミュニケーションを図ることが求められる。そのため、当社では「考える、やってみる、みんなのために」を行動指針としており、この言葉に凝縮された人づくり、会社づくりが当社の骨格を形成している。

### 「自分をつくる」フジみらいへ

創業者である江崎郁夫氏（現会長）は、昭和51年に徳島市吉野本町でフジ設計工務有限会社を独立開業した。これには伏線が

あった。創業前に勤務していた会社の幹部研修で、「あなたの会社で作っているものは何か」という修了試験の問いに、自分の名前をあげたという。「豊かな見識と挑戦する心を持つ自分や会社を造りたい」という思いを強くし、事業を興す道を選んだのだった。

この創業の思いを一言で表現したのが、昭和58年に策定した行動指針の「考える、やってみる、みんなのために」だ。松下幸之助の「考えてみれば、サントリーの「やってみなはれ」の精神と、大学の恩師である石黒教授の「貧しい人の税金で学んでいるのだから卒業したら社会に尽くせ」という教えを踏まえ、江崎流に昇華させたものだ。

橋梁設計の下請会社として3人でスタートした会社は、昭和62年には公益法人の四国建設弘済会と取引を始め、現在主業務としている技術支援の道を拓き、平成元年には株式会社フジ設計に社名変更と共に、事務所も徳島市八万町に建設、移転した。

平成18年には、「民でできるものは民へ」という行財政改革の流れの中で、国土交通省などが求められる。そのため、当社では「考える、やってみる、みんなのために」を行動指針としており、この言葉に凝縮された人づくり、会社づくりが当社の骨格を形成している。

このことが契機となって、平成23年9月には株式会社フジみらいに社名変更した。社名は社員から募集し、「みらい」のもつ力強さ、希望、優しさは、創業者が目指す「共生、共福

社会の創造を表現したのもだった。当時の江崎郁夫社長はこの段階で「顧客よし、社員よし、社会よしの三方よしを実現する300人規模の会社にした」と強く思うようになった」と話し、県外展開も視野に入ってきていた。

### マリンピア沖洲へ移転、 新たな成長の基盤づくり

八万町の本社では、月に一度は全社員が集まって全体会議を開催し、意思統一とコミュニケーションを図る場としていたが、①社員数が100名を超え、社員が一堂に会することが社内ではできなくなったこと、②部屋構造が作業効率を阻害していることが目立ってきたこと、③今後の県外への展開を考えれば好立地の事務所が欲しい、との結論に達し、平成28年2月には、本社事務所を高速道路インターチェンジに近くて交通の利便性が良いマリンピア沖洲へと移転することになる。この決断がその後の発展に結びついていった。

新本社の延べ床面積は旧本社の約3倍になった。2Fの作業室は1フロアにして作業効率、連携を良くした。各グループが協議する会議室も旧本社の3倍の部屋数を確保した。3Fには全社員が集う広い部屋を確保し、月1回は全社員による会議ができるようにした。「最前線で頑張ってくれている全社員が建ててくれた本社だから、みんなが一堂に集える場としたい」との想いを実現したのだった。

平成29年7月には「創業の精神」「経営

理念」を1年間かけて再議論して、社員にわかりやすいよう編集した。『創業の精神』は共福社会創造の精神、幸せ追求の精神、正直経営の精神、創意工夫・挑戦の精神、三方よし経営の精神、社会企業追求の精神の6項目を定めた。『経営理念』では「私たちの使命」は安全・安心で豊かな社会づくりに貢献することであり、「私たちの目標」には共福感動企業を目指すことが述べられている。そして、「私たちの行動指針」である「考える、やってみる、みんなのために」を追求する行動を6項目で示した。

これらには、社員一人一人にブレイクダウンしやすくように丁寧でわかりやすい解説が付けられている。毎週月曜から金曜にかけては朝礼の場等で、経営陣からの講話や、グループでの話し合い、気づきの発表、環境整備活動などいろいろな方法を組み合わせることで社員一人一人への浸透を図っている。

### 心と技術の研修の制度化・仕組化

マリンピア沖洲への移転を機に、少子高齢化、技術者不足の社会的な課題に対応するため、若手社員の採用に本格的に取り組む専門組織として、経営企画課を立ち上げた。

応募してもらうためには、会社の姿を正しく広く知ってもらう必要がある。そのための広報も担う。技術系の会社でありながら、理系にこだわらない。笑顔良しで、誠実な人を採用し、技術と共に「あいさつ、掃除にありがとう」を重点とする研修で社員の育成を図っ

ている。

そのコンセプトが「ゼロ育」と「研修の仕組化」である。「ゼロ育」とは、技術者をゼロから育てること。当社の採用は、技術者の中途採用が中心だったが、3年前から新卒や若手未経験の採用へ舵を切った。このことは土木業界の課題である後継者不足、若者離れの解決につながる。

同時に進めたのが社内の研修制度の見直しだ。従来から中途社員の研修に時間を設けて人財育成を進めていたが、それを体系化し、制度化した。基本的な土木用語から始まり、仕事で使うスキルを中心とした基礎的な研修を、中途採用者には1〜2ヶ月、新卒者には約3カ月行う。社内研修でしっかり身につけ、研修後には現場に出て専門性をOJTで学ばせる。その意味で、マリンピア沖洲の社は「心と技術の研究・研修・開発センター」なのだ。

### 理念の継承と新しい挑戦

令和に入り令和元年5月に、創業者の江崎郁夫氏から長男の江崎雅章氏に事業承継した。新社長は東京の大手コンサルタント会社で8年間勤務し、平成19年に当社に入社し、12年間の社内勤務で実績を積んだ。江崎郁夫現会長は、「事業承継は、財産の承継ではなく、経営理念の承継だ。経営者が交代しても創業の精神や経営理念を継続することが大切で、その心を身につけたらバトンタッチした」と話す。

江崎雅章新社長は、「創業者から引き継いだ『創業の精神』『経営理念』をしっかりと継承していく」とともに、地域や業界の課題解決のために新しい事業展開への挑戦も進めている。業界全体の課題である技術者による支援を柱として、老朽化が進んでいる市町村橋梁の長寿命化に向けた橋守保全、実務者が使いやすいシステム開発など当社が社会貢献できる課題解決のテーマは、明確に視野に入ってきた。そこに向けて、みんなが主役のボトムアップ型で、かつ縦横に串をめぐらした行動力のある組織づくりを進めていくのだ。「フジイズムを持ったサービスでお客様や周りの人とことん向き合い、現場の最前線に働く社員一人一人が活き活きと活躍できる会社づくりに一層力を注いでいきたい」と江崎新社長は力強く歩を進めている。

（文責 濱川泰博）

### Company Profile

会社名 株式会社フジみらい  
所在地 徳島市東沖洲一丁目6番地1  
設立 昭和51年  
資本金 2400万円  
従業員数 154名  
TEL 088-664-7077  
FAX 088-664-7078  
URL <http://www.fujimirai.co.jp/>